



人社中心  
H.I.S.P

# 大學與地方創生

從大學立場，我們如何理解與詮釋地方創生？

以目前人文創新與社會實踐計畫執行的方案與地方創生的關連性？

國立暨南國際大學通識教育中心

張力亞專案助理教授

2018.07.23

# 簡報大綱

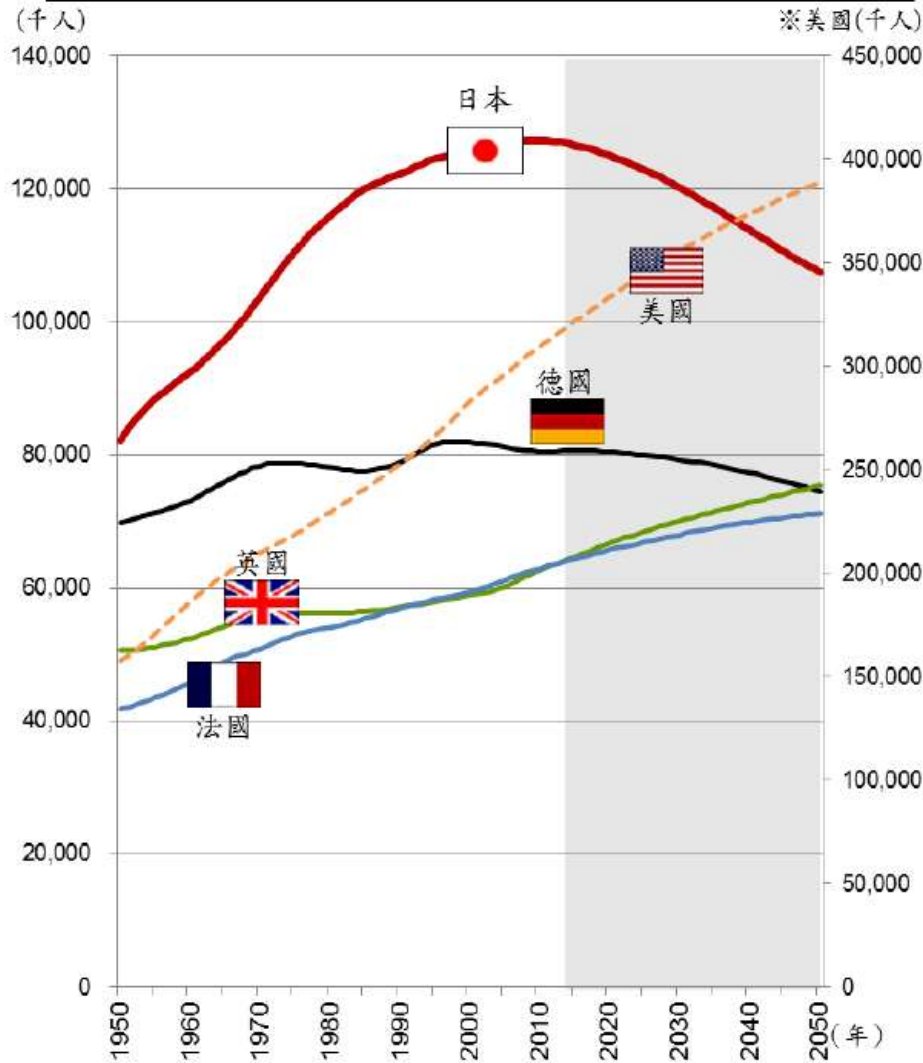
- 來自日本的考察經驗
- 重新爬梳地方創生的意涵
- 在地方創生過程中，大學可扮演的角色？

日本政府面對人口減少的挑戰檢視國家發展的課題一、國家競爭力下滑

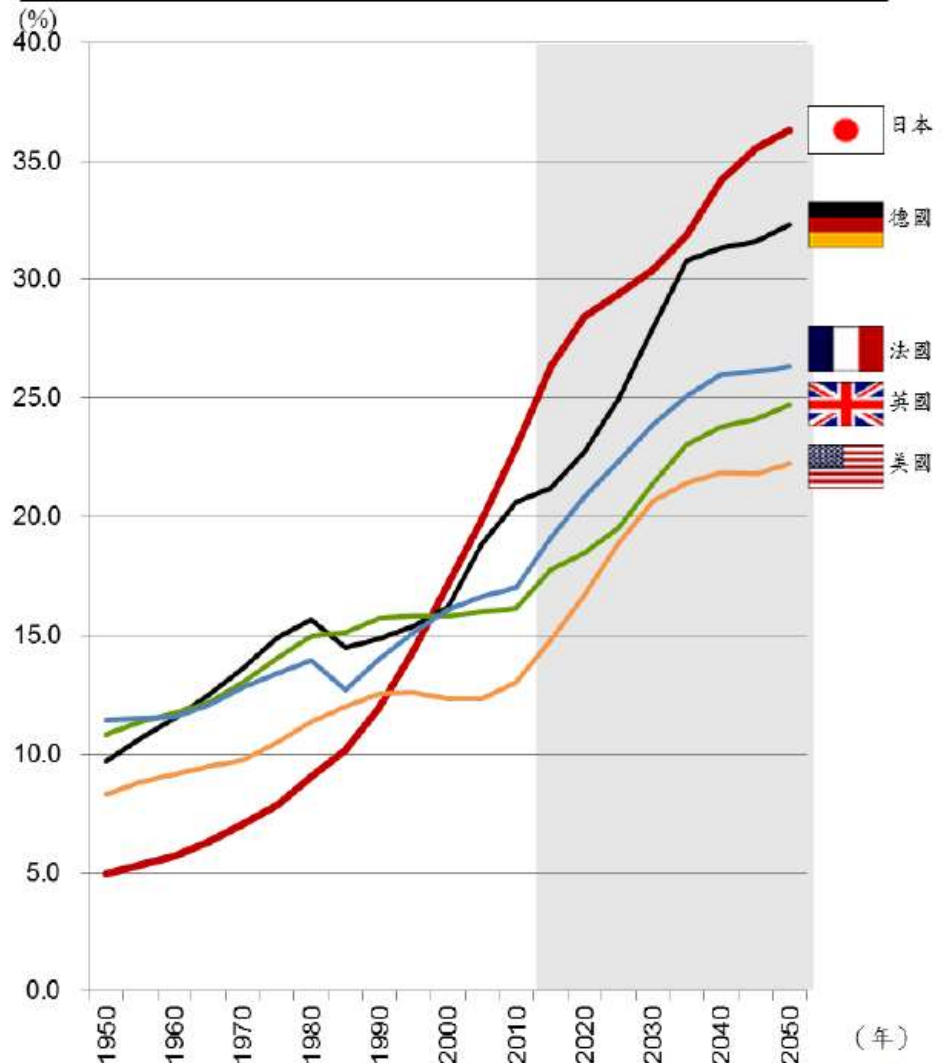
日本面對未來人口推估減少、高齡人口快速成長的趨勢，維持未來全球競爭力為國家發展之隱憂



未來人口變動趨勢



未來老年人口比率(65歲以上人口比率)

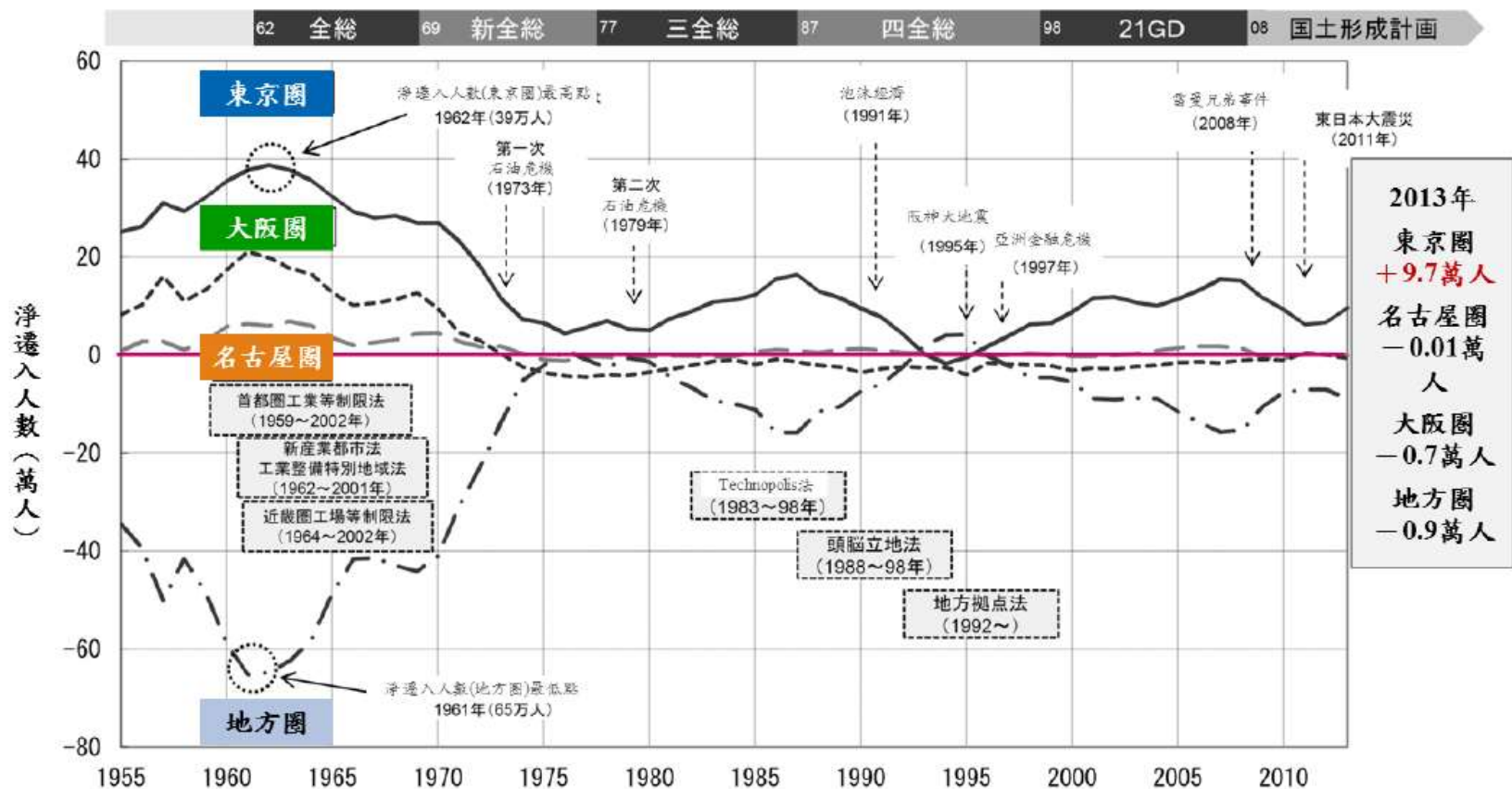


資料來源: 國際連合「World Population Prospect」

日本政府面對人口減少的挑戰檢視國家發展的課題二、地方圈面臨消失的危機  
 自1955年以來為期60年，人口持續往大都市圈(東京圈)流入，  
 使得地方圈人口持續減少，城鄉差距日益擴大



大都市圈與地方圈的人口移動變化



註：以總務省「住民基本台帳人口移動報告」為根據國土交通省國土政策局作成  
 東京圈：東京都・埼玉縣・千葉縣・神奈川縣、名古屋圈：愛知縣・岐阜縣・三重縣、大阪圈：大阪府・京都府・兵庫縣・奈良縣  
 全總：全國總開發計畫、21GD：21世紀的國土地設計

資料來源：日本國土交通省「國土地設計2050」



限界集落（げんかいしゅうらく），

日本社會學家\高知大學人文學部教授大野晃が於1991年，進行山林產業發展時所獲得的心得並予以提出。

由於人口減少因素，導致65歲或以上的老年人佔全市總人口的50%或以上，被稱為邊緣自治市。而在此現況下的村落即稱為「限界集落」。

以維持1億人口以及GDP為目標，日本政府於2015年提出國家與地方層級的長期願景及城鎮·人·工作總合戰略，並開始推動地方創生版的三支箭支援體制



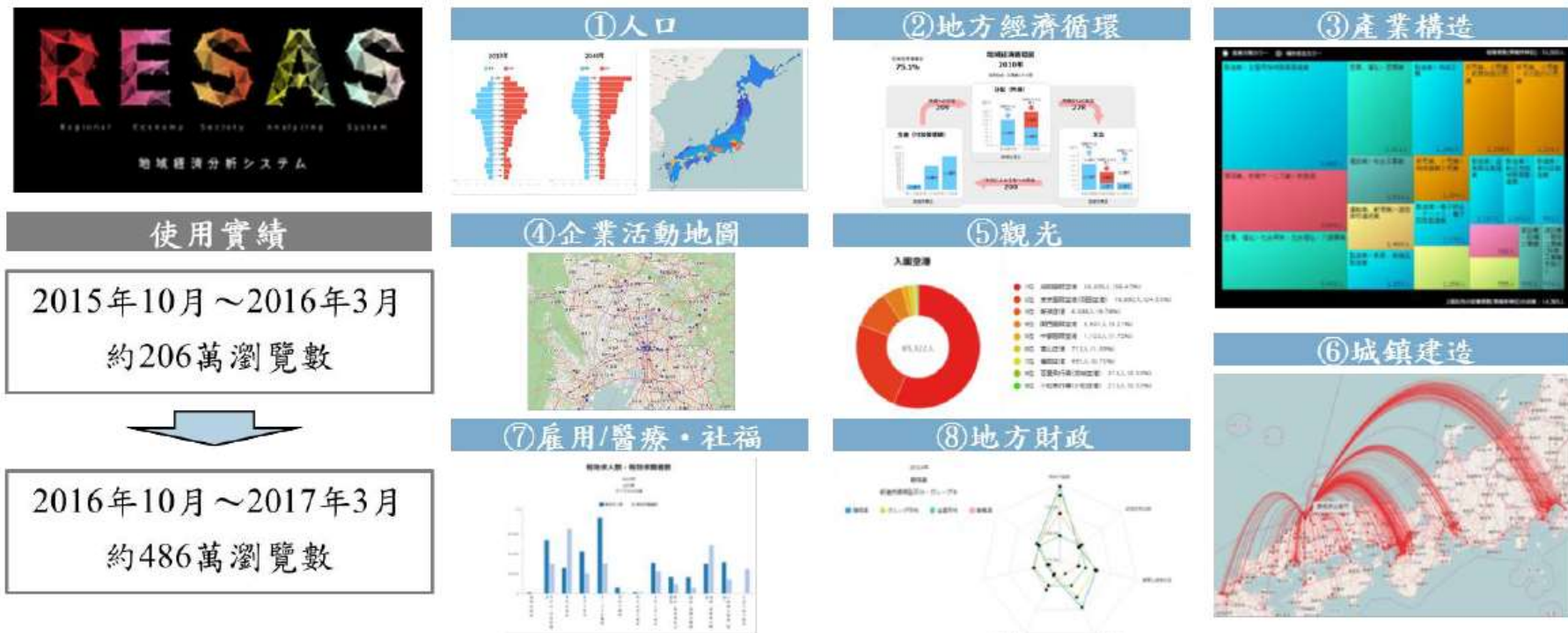
資料來源：內閣官房「城鄉·人·工作創生長期Vision」及「城鄉·人·工作創生總合戰略」(2016年改訂版)的總體情況等相關資料為基礎 3

推動地方創生－情報支援

以情報支援作為支撐城鎮·人·工作總合戰略推動的第一支箭，  
協助地方政府制定符合地方發展實際狀況的長期願景及地方創生戰略

- 為了制定各地方的總合戰略以及透過PDCA方式進行效果驗證，需要更完整、即時以及能夠反映地方發展實際狀況的資訊作為輔佐資料。
- 地方經濟分析系統(RESAS)將人口、產業、人流、醫療與財政等各項地方大數據進行可視化的彙整，以清楚明瞭的Dashboard呈現於使用者進行現況分析、促進策略擬定以及效果驗證。

推動城鎮·人·工作總合戰略:情報支援:地方經濟分析系統(Regional Economy Society Analyzing System, RESAS)



資料來源：根據內閣府地方創生推進室以及RESAS公開資料

## 推動地方創生—人才支援

以人才支援作為支撐城鎮·人·工作總合戰略推動的第二支箭，提供地方政府總合戰略制定之諮詢、執行及人才培育等支援

### 推動城鎮·人·工作總合戰略:人才支援

#### 地方創生Concierge制度

- 招集各中央政府相關職員擔任各縣市的地方創生Concierge(守門員)角色，作為地方政府針對各項地方創生推動方面的諮詢窗口，協助介紹相關可對應的中央部會機關於有需求的地方政府人員，促進中央與地方的合作關係。

#### 地方政府不清楚中央諮詢對象時



#### 地方政府掌握具體中央諮詢對象時



#### 地方創生人才派遣制度

- 派遣國家公務員、民間人才或大學研究者到各地方輔助地方政府推動地方創生的計畫內容。
- 派遣之前提供研修活動，包含地方大臣的談話、地方創生相關推動方式的演講等。
- 派遣期間派遣員須參加一年4次的交流會議，促進掌握各地方的推動狀況。

#### 2015年~2017年的實際派遣實績

派遣實績	2015	2016	2017
國家公務員	42	42	44
民間人才	12	13	9
大學研究者	15	3	2

備註:此為當年度的派遣支援人數

#### 地方創生學院事業

- 透過線上教學的方式培育地方創生推動人才。
- 學習領域分為基礎篇與專門篇兩種。
  - 基礎篇:地方戰略擬定、資料分析、事業自立化、地方創生理念、產官串聯、地方課題解決等。
  - 專門篇:觀光/DMO、地方商社、策略擬定與事業推進、居民自治與個案探討。

#### 地方創生學院事業授課實績

(截至2017年9月約7293人授課)

#### 地方創生カレッジ



資料來源:根據內閣府地方創生推進室公開資料



地方創生推展具體策略與實施工具

地方政府、企業、學校醫院及組織根據國家制定之四項具體策略展開地方創生事業，依照各地社會經濟現況，選擇合適的實施工具，達成城鎮·人·工作的美好循環

負責主體 具體策略	政府	企業	大學·高等專門學校/醫院	NPO等
創造地方安穩的人才工作環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>體育活性化 (透過東京奧運與殘奧會)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方版IoT推進實驗室 (醫療、交通等)</li> <li>店鋪·農地·古宅等空間資產活用</li> <li>廣域觀光協會 (DMO)</li> <li>傳統工藝產業振興</li> <li>地方物產商社</li> <li>創造地區核心企業 (農林漁業、航空宇宙、觀光等)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>(觀光、交通等新生活產業) 共享經濟</li> </ul>
創造往地方新的「人」的流動	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府相關機關 地方遷址</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本版CCRC (含照護機能之退休社區)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業地方據點強化</li> <li>地方創生 Internship推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方大學振興</li> <li>綠色旅遊</li> </ul>
滿足年輕世代結婚·生產·養育的希望	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化對策</li> <li>生育支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年輕世代 穩定經濟支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方工作方式 改革推進</li> </ul>	
在創造符合時代的地區及守護安心生活的同時，建立區域聯合	<ul style="list-style-type: none"> <li>連攜中樞都市圈</li> <li>全球永續發展目標 (SDGs)推進事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本版BID (向企業徵收區域空間維護管理費用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型據點與地區運營組織形成</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>打造以大眾運輸為軸心之緊密城鄉(立地適正化)</li> </ul>		

只是，  
以往以專業研究、國際發展為導向的大學，  
如何重新定位自我，  
並在地方振興事業中扮演  
「創造往地方『新的人』流動之可能性」？

## COC : center of community

- 大学COC事業Center of Community “の頭文字を取った略語で、「地(知)の拠点整備事業」。
- 以community為核心。
- 大學整備地方的事業 (研究、教學、社會貢獻)。
  
- 文部科學省5年期的計畫：2013年 (平成25年) 開始。
- 預算額度平成25年度：23億日圓。
- 選定52件由國公私立大學、短大、專科學校 (共342間學校提出，入選56間學校) 提出計畫，依情況補助最多5年。

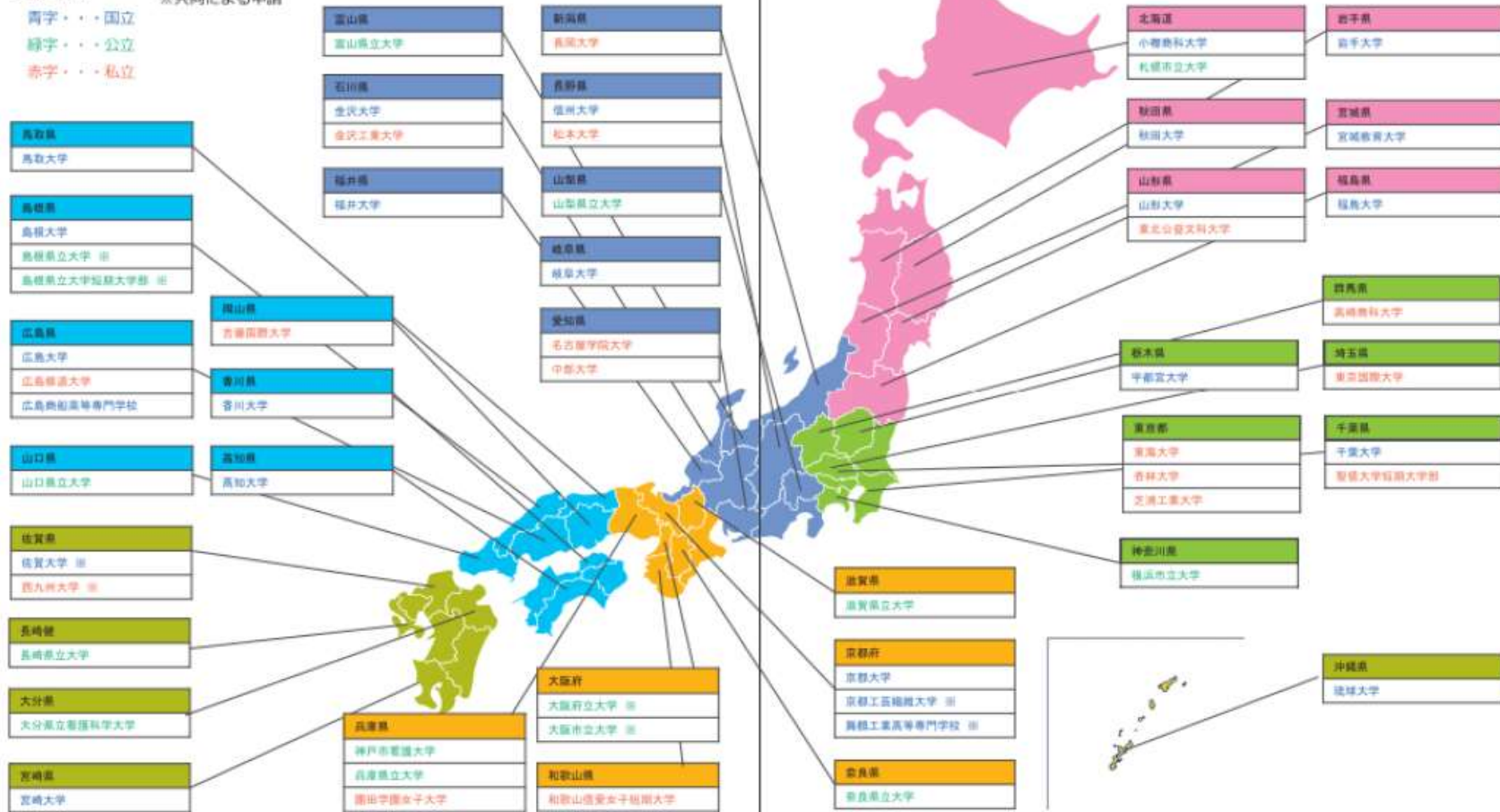
# 推動COC計畫的大學分布

## 採択機関の所在地

○設置主体

青字・・・国立  
 緑字・・・公立  
 赤字・・・私立

※共同による申請



# COC +

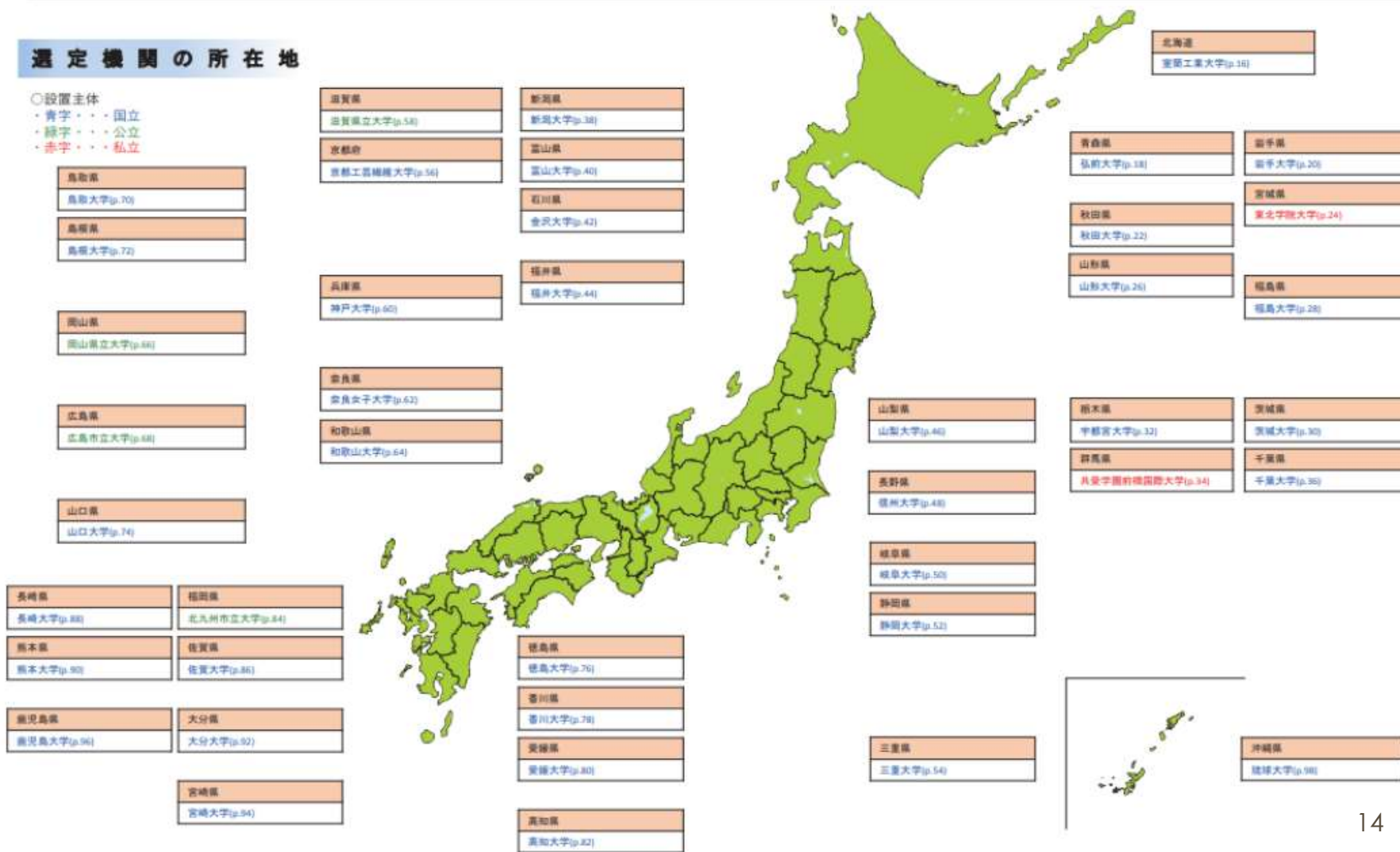
- COC + ：地(知)の拠点大学による地方創生推進事業。
- 以COC為基礎，強調區域內大學的連合。
- 大學整備地方的事業→協助推動地方創生。
- 什麼是**地方創生**：發展區域特色，找到最合適自身的產業和生活。
- 文部科學省根據COC計畫，提出5年期的整併計畫：  
2015年(平成27年)開始。
- 預算額度平成27年度：44億日圓，選定42所國、公、私立大學，依情況補助最多5年。

# 推動COC+計畫的大學分布

## 選定機関について

### 選定機関の所在地

- 設置主体  
 ・青字・・・国立  
 ・緑字・・・公立  
 ・赤字・・・私立



因應無邊界大學計畫的執行需求、且適逢2018年要跟福井大學千姊妹校之際...於是啟動了「福井、金澤、信州」三間大學的見學之旅

## COC + 的排名

學校	福井大學	金澤大學	信州大學
2016 (平成28年)	A	A	S
2017 (平成29年)	S	B	S



# 培育COC+ 的人才教育

- 1、掌握地方人口發展趨勢、議題與地方潛力
- 2、設計以地域為核心的學習課程
- 3、重新定義如何學習：各種教學工具の利用
- 4、培養願意留住的學生

「ふくい地域創生士」へのステップ

ふくいでの学びをカタチにし、地域で活躍しよう!

★1年～3年 「ふくい地域創生士」になるには?

各大学において定める、地域志向科目 12単位以上を修得 + 地域でのインターンシップ又はこれに類する活動に参加

詳細は、各大学の窓口にお問合せください。

どこで授業は受けられるの?

各キャンパス  
テレビ授業  
大学連携センター(Fスクエア)  
F-SQUARE  
各大学の教員・学生と交流できる場  
受講者は、延べ1,196名

入学

申請書は、WEBからダウンロード!

●ふくいCOC+ホームページ  
<http://www.allfukui-cocp.jp/>

「ふくい地域創生士」を申請するときに書くことは?!

- ① 地域志向科目の修得やインターンシップ等の経験を添えて自ら行動したこと
- ② 地域(福井やあなたの出身地域)の課題を解決するためにどのようなアクションを行ったか、又は、これから何をしたいか(400～600文字)

提出は、各大学の窓口へ

16歳 WEB、PCでの申し込み 17歳 WEB、PCでの申し込み 18歳 WEB、PCでの申し込み

ふくい地域創生士 申請書 GET!

ふくい地域創生士 認定!

申請時期は、各大学から個別に案内があります

卒業

実現する。夢を! 夢を持ち、どう実現するか じぶんの働き方、生き方を考えてみよう

就職スタート! 企業、自治体! 地域で学びを生かして 各々の卒業で何が出来るか

スケジュール

1年次 入学式・開学式・ガイダンス・授業開始  
2年次 地域志向科目履修・インターンシップ・地域活動  
3年次 地域志向科目履修・インターンシップ・地域活動  
4年次 卒業式・就職活動

お問い合わせ先

福井大学 TEL 0776-27-8600  
福井県立大学 TEL 0776-41-4000(内線)  
福井工業大学 TEL 0776-29-7865  
信州大学 TEL 0776-21-2271(内線)  
教育庁立福井大学 TEL 0776-26-5949

※ふくい地域創生士は「福井大学の登録商標です」

地(知)の拠点

ふくい地域創生士を 目指そう!

どんな認定制度なの? 選択する、意志を持って。

ふくい地域創生士は、ふくいの人。

ふくい地域創生士 認定!

ふくい地域創生士 認定!

地(知)の拠点

地域思考型教育カリキュラムマップ

いしかわ 学生定着推進協議会

参加大学  
北沢大学、金沢工業大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢医療大学、金沢学院大学、金沢大学、法政大学

協賛大学  
北陸先端科学技術大学院大学、北沢医科大学、北沢薬学工業大学、法政学院大学、法政学院大学短期大学部、金城大学短期大学部、北陸工業大学

協賛団体  
公益社団法人大学コンソーシアム北陸、福井キャンパス連携推進協議会

お問い合わせ先  
いしかわ学生定着推進協議会事務局(事務局:北沢大学)  
〒920-1192 北沢大学北沢キャンパス 北沢大学(事務局)  
TEL 076-264-6228 Mail: iskk@baku.kanazawa-u.ac.jp  
Web: Web: http://www.iskkteam.org/



# COC事業の成果の活用

## 信州アカデミア構想（信州を未来へつなく、人材育成と課題解決拠点）

### 〔1〕 課題解決知の形成

地域の知と大学の知を融合させて  
信州の未来を考える解決知を創造



調査・研究・開発

連携協定を活用し、自治体職員等の地域講師による授業や地域課題を実践的に学ぶ授業の導入

地域人材育成

社会人の学び直し・経験知の体系化と行動力アップ



地域戦略プロゼミ  
・地域課題解決のバイオニア育成  
・高度専門職人材の育成（大学院進学）  
・地域コーディネーターの育成

プロゼミで育成した地域人材を大学教育に活用。自身の学びに加え、教えることで学修を深化する。また、地域からの踏み込んだ大学参加により地域と教員・学生の連携が深まり、地域志向教育・研究の実践力を促進

地域活用学習  
課題実践学習

地域講師を担当  
実践学習の場提供

地域志向教育

信州の地域課題を通して学問と社会のつながりを高める

大学院生…アカデミアTA講師・運営参加  
学部教育…高年次教員教育  
共通教育…地域を知る地域志向科目の受講  
自治体連携研究員やプロゼミ修了生を講師に活用した教育

地域連携による循環型人材育成システムを創造

### 〔2〕 人材育成フェーズ

### 〔3〕 地域協創・人材定着（COC+）



信州の地域課題を通して学問と社会のつながりを高める

課題を解決する専門的な知能力の養成

信大大学教育改革

共通教育科目	学部専門科目
人・社会・文化	人文学部
文・学・芸術	文学部
理・工・農	工学部
法・経済	経済学部
健康・福祉	健康学部
環境・共生	環境学部
国際・多文化	国際学部
キャリア	キャリア

分野融合 (Interdisciplinary Learning)

一貫教育 (Integrated Education)



一躍当千！地域変革リーダー&地域講師の輩出（180名）



特設：専門性を核とした幅広い視野を育成する教育体制へ

特設：地域講師として学部教育の実践力を促進

# キャリア教育プログラムの開発 インターンシップに関連する授業



キャリア形成に関する授業例

**大学生基礎力ゼミ**

学生が大学に適応し、早い段階で自立した学生になることを支援するとともに、必要になる基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。

**キャリア形成論Ⅰ,Ⅱ**

キャリアの多様性を知るためのゲストスピーカーによる講演や、先輩の活動や大学での研究内容を学び、自分らしいキャリアを考える。

**ベンチャービジネス概論、課題解決実践ゼミ**

実践的なプロジェクト遂行に関する知識と能力を、グループワークで学ぶ。身近なところにある課題を見つけ、どのようにしたら解決できるかを考え、どのように実行に移せるようになるかを計画する。

**地域活性化システム論、地域ブランド実践ゼミ**

そもそも働くってどういうこと？働くことは楽しいの？どんなことが大変なの？を率直に聞ける場を提供する。

**大学生から始めるキャリアデザイン、キャリアデザイン実践ゼミ**

ワーク（仕事）だけでなく、ライフ（暮らし）において自分が大事にしたいことをグループでディスカッション。企業との協働インターンシップも実施。

**スキル形成**



**マインド形成**



**アビリティ形成**



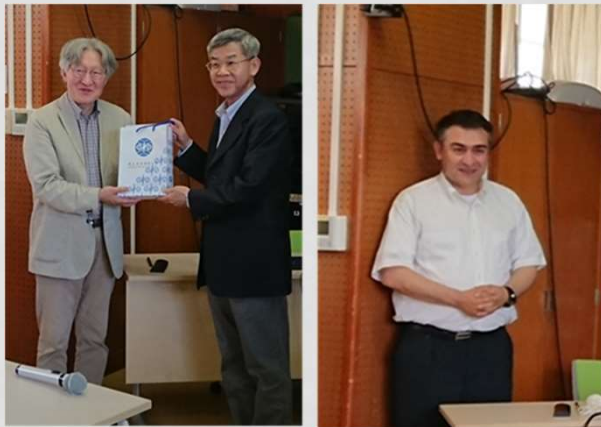
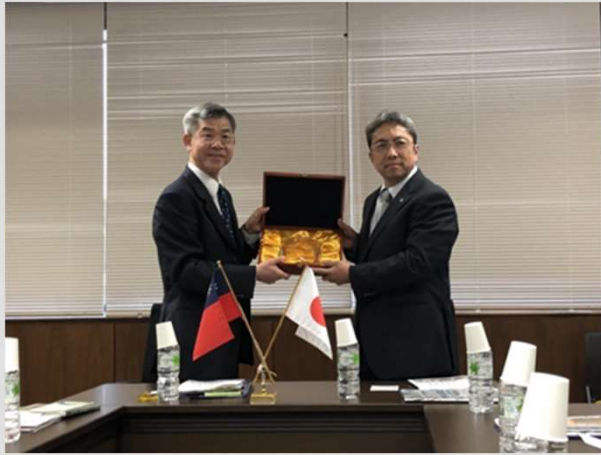


## 教育プログラムの履修状況（キャリア形成に関する授業）

	1年前期		1年後期		合計（重複含まず）		入学生数
	履修者数	割合	履修者数	割合	履修者数	割合	
H28入学生	633人	30.5%	474人	22.8%	872人	42.0%	2,076人
H29入学生	782人	37.7%	304人	14.6%	937人	45.1%	2,076人

## 從COC到COC+的行政體系

- 1、校內首長的政策支持
- 2、成立對外連攜的專責單位
- 3、彈性任用教師（建立校內外相談人制度）



COC+計畫負責人：平野吉直（信州大學理事，  
教務・學生・入學試驗）・副學長  
COC+計畫核心目標：透過教育提升地域產業就  
業的人才培力與留用

# 信州大学の事業推進体制

信大学内関係機関等

信大COC & COC+事業推進コア

外部連携機関

外部評価委員会

COC事業の外部評価委員会を継承予定

COC+運営委員会

長野県地方創生推進事業協議会 (COC+推進協議会)

産業界

- ・長野県 経営者協会
- ・長野県 中小企業家同友会

大学

- ・信州大学
- ・松本大学
- ・長野大学

行政

- ・長野県県民文化部



◎企画調整

教育プログラム開発委員会

- ・大学間連携の教育活動
- ・インターン、就職支援連携



濱田学長

◎審議・承認

教育研究評議会

理事懇談会

中村理事

〔研究、産学官・社会連携担当〕  
〔機構長〕

◎相談等

平野理事

〔教務、学生、入試担当〕  
〔キャリア教育・サポートセンター長〕

◎教育及び関連事業の実施

各学部

全学教育機構

- ・役職協力教員  
(産学・地域連携担当)  
(教務・就職担当)
- ・授業等協力教員
- ・研究等協力教員

協力・支援

教育・学生支援機構

協力依頼

学務部・各学部学務

研究推進部

◎プラン確認・検討

学術研究・  
産学官連携推進機構  
運営会議・ST長会議

キャリア形成  
委員会  
(旧：就職委員会)

教務委員会

COC

◎企画・実施

産学官連携・地域総合戦略  
推進本部  
〔旧：地域戦略センター〕  
(COC推進事務局)

COC+

◎企画・実施

キャリア教育・  
サポートセンター  
(COC+推進事務局)

◎調整

教員  
兼務

## 建構外部COC + 的支持系統

- 1、鏈結地方政府、產業組織
- 2、整合區域內大學間的資源並做分工
- 3、重新設計或定義校內組織職能
- 4、大學與地方共組新單位
- 5、孕育地方產業需要的辦學內容與人才培育機制

# 長野県内におけるキャリア形成推進事業

## 行政+COC連携自治体

長野県-労働雇用課、-総合政策課、-私学・高等教育課  
ひとづくり交流デスク-専門部会

- 教育の充実と県内産業が必要とする人材の確保
- 県内企業の強みを活かした成長分野の産業構築
- インターンシップのマッチングの仕組みを構築
- インターンシップ受入の手引きを作成
- マッチングをコーディネートする専任職員を配置

### 信州産学官インターンシップによる地元企業を知る機会の創出

- 県内インターンシップ (長野県内企業へのマッチング)
- 海外インターンシップ (県内企業の海外事業所へインターンシップ派遣(20万円))

## キャリア (将来像・仕事) を考える分

### キャリア

- キャリアに必要な基礎力を育成
- 自分の適性を知り、仕事・働くを考える

## 地域志向 (地域の課題や特徴) を学ぶ

信州の自然・地勢、産業や生活・文化など、地域との対話から設定した6つの学習テーマ (地域課題) を通じて、地域を考える意識・基礎知識を養う

地域運営 芸術文化 環境共生 健康長寿 多文化協働 防災減災

## 主幹大学：信州大学

### インターンシップの拡充 (プログラム開発・受入先の開拓)

- 低年次 (1、2年生) 向けの「プレ・インターンシップ」を充実
  - …働くを知る、地域社会を知る、生活を考えるなど具体的なジョブマッチングを考える前に必要なマインド育成、基本的なマナー等を学ぶ。高年次へのスマートな接続へ
  - ▶ ワンデー・インターンシップ
    - …一日で1,2社の職場やOBを訪問し、知ることから始める
  - ▶ エリア・インターンシップ
    - …一定エリア内の地域企業や業界の実情を複数日かけて学ぶ
  - ▶ 取材型インターンシップ
    - …インタビュー調査等を通じて事業内容や企業課題を学ぶ

### ● 高年次 (学部) インターンシップの支援

…各学部独自のインターンシップ事業は継続しながら、学部によって補充したい。マナー教育や事前学習等についてキャリア教育・サポートセンターで支援をする

### キャリア育成マネジメントツールの整備

「eポートフォリオシステム」▶ 長野大学との共同運用

学生が日々の学習・課外活動等をウェブ上の個人ページに記録。

自己のキャリア形成プロセスを可視化し、体系的にマネジメントするためのツール

## 長野県産学官協働人材育成円卓会議

長野県の持つポテンシャルを十分に活かし、新たな付加価値の創出を担うことのできる人材育成について、県内大学と産業界・行政が一体となって取り組む。

長野県の課題、発展の目標

## 信州産学官 ひとづくり コンソーシアム

◎雇用創出・就職率向上に向けて  
魅力ある企業 (特に中小) の発掘を進め、事業協働地域としてインターンシップを強化  
(参加率を20%→40%へ・県目標ともリンク)

## 産業界

より実践的な学びの場へ  
評価手法の開発

経営者協会、商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会、中小企業家同友会、プロフェッショナル人材育成拠点

- インターンシップの受入れ体制の整備
  - インターンシップの受入れの意向に関する調査
  - インターンシップの拡大と人材の県内定着に向けた学生支援
- 独自の受入先開拓、他機関との連携 (地域の特徴ある中小企業等への重点化)
  - 長野県等が推進する地域企業へのインターンシップとの連携
  - 各種団体が取り組むインターンシッププログラム等との連携
  - 自治体や業界団体等との連携協定等を活用し、新たな受入先を独自に開拓

## COC+参加大学：長野大学

地域志向のインターンシップの動機づけ、参加意欲の向上

- 「地域地場課題」地域資源を活用した地域活性化を考える
- 「信州学生サミット」地元志向の学生が働き手意識を共有

→ 地元の組織で働く人の気持ちや将来、生き方を共有

## COC+参加大学：松本大学

地域の課題解決に取り組む → 地域への定着

- 「地域防災」学内に立ち上げた自主防災組織の啓発と環境整備
- 「健康づくり」加圧度トレーニングマシンを使用した運動指導

→ 異なる世代との交流により、コミュニケーション力が向上

## COC+事業における目標値 太字が実績値 ( )内目標値

目標値		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
県内就職率 (%)	全体	51.7	49.7 (52.6)	49.3 (53.7)	(54.9)	(56.1)	(56.7)
	信大	40.4	37.9 (41.0)	36.5 (42.3)	(43.8)	(45.0)	(45.4)
	長大	72.1	70.5 (72.8)	68.7 (73.5)	(75.0)	(77.3)	(79.6)
	松大	84.4	85.1 (86.5)	79.0 (86.7)	(86.9)	(87.1)	(87.3)
インターンシップ参加者人数	全体	245	199 (260)	278 (310)	(390)	(480)	(540)
	信大	201	134 (210)	181 (250)	(320)	(400)	(450)
	長大 松大	44	57 8 (50)	80 17 (60)	(70)	(80)	(90)
雇用創出数		-	5 (1)	2 (2)	(3)	(4)	(5)

※1. COC+における県内就職率 = 県内就職者数 / 就職希望者数

## 以信州大學為例

COC+計畫核心目標：**透過教育提升地域產業就業的人才培力與留**

成立職涯教育支援中心	從入學到畢業不斷安排教師提供職涯發展支持所需的教育。
建立學習職涯教育的結構，與業務評估體系	<b>重組「就業委員會」，改為「職涯委員會」。</b>
產學合作組織與高等教育研究機構之間的信息共享和合作結構建立	
加強職涯教育推廣能力，提升與COC業務的連續性	<b>新設置的職涯教育/支援中心負責人：</b> 負入學考試、教學，學生。指定並開展人事活動，以提高全校職涯教育的動力。 <b>其次，指定一名負責教師擔任COC項目副總幹事。</b>
大學教師職涯教育的動力	與高等教育研究中心教師一起加強研究，並且設計講座。

<p>準備設置「長野縣地方創生推進事業協議會」，推動 Project Based Learning</p>	<p>以<b>服務學習和PBL（基於項目的學習）</b>，與當地政府和公司合作 推動以中小製造企業為中心的擴大實習的共識。</p>
<p>大學之間的協力合作促進職涯教育項目的諮詢：</p>	<p>信州、松本、長野大學的合作協議會設置。 信州大學是地區實習生的基地。 長野大學負責地方商業組織的連結。 松本大學負責保護區、災區、健康促進的工作。</p>
<p>強化長野縣及產業界的職涯教育支援</p>	<p><b>信州產官學聯盟</b>：設置專責人員，負責長野縣內771個小型事業的參與意願、現況調查。</p>
<p>產官學的對話場域與組織</p>	<p>催生設置一個專門部會，具體檢討「<b>長野縣人才培育政策方案與留用</b>」的執行成效。</p>
<p>推動調查事業</p>	<p>結合長野縣四個經濟團體（長野縣經營者協會、長野縣中小企業團體中央會、長野縣商工會議所聯合會、長野縣商工會聯合會）所屬的企業，進行<b>人才聘用需求調查及意向</b>。</p>



## 綜觀前述

「地方創生」這一名稱發源於日本，其中心思想是「產、地、人」三位一體，一句話來說，就是希望地方能結合地理特色及人文風情，讓各地能發展出最適合自身的產業，以及生活方式。

例如：信州（紡織）

福井（中小企業、眼鏡、恐龍化石）

能登（里山里海）

## 從日本COC + 經驗，重新看待暨大的目前

- 人社計畫推動初衷：**積極建構大學與在地社群的連結與互信關係**，採取人文關懷與社會創新視野，整合各系、所、學程專業研究社群，並結合在地公共社團組織，針對水沙連地區各項社會問題，以行動研究方法進行調研，累積各類議題知識與資料庫。
- **設置校級「水沙連人文創新與社會實踐研究中心」**
- **從水沙連區域出發，聚焦「臺灣鄉村發展課題」。**
- **規劃與執行「R立方青年返鄉創新實學程」--R. School**
- **設有彈性多元的「地方連攜會議」**，ex.水沙連區域合作推動委員會、暨大與南投縣政府跨域工作小組、埔里生活生態博物館、南投學習型城市推動委員會、埔里生態城鎮推動小組...等。
- **啟動部分地方創新計畫...**

地方問題

生態環境 ( PM2.5、水環境、生態環境復育 )

地方產業 ( 休閒農業、民宿、咖啡、外勞 )

社會照顧 ( 長期照顧、弱勢關懷、樂齡 )

文化教育 ( 偏鄉兒童教育、地方文化保存與活化 )

閒置空間再活化 ( 中興新村 )



行動計畫

營造綠色水沙連：智能 X 減污 X 循環 PM2.5空污減量微型監測器佈建與志工推動

水沙連跨域共學 - 在地產業與鄉村旅遊產業鏈結計畫 青年返鄉的培力與支持系統 搖滾畢拉密: 社區翻轉、文化翻滾，以「東南亞」為方法

建構水沙連「無老·長照」協力治理網絡-教育、共助與永食物銀行計畫

翻轉水沙連偏鄉弱勢學習路徑 埔里生活生態博物館網絡 學習型城市計畫

中興新村地域創生之願景營造與社群協力計畫

## 社區水資源盤點

- 17處自來水質水量保護區
- 9處水源保育社區 · 1處實作示範基地
- 10處地下湧泉盤點
- 社區工作坊交流會談20場
- PPGIS公眾參與地理資訊系統簡易問卷調查

## 生態復育

- 環保旅店15間
- 環保署認證低碳社區3處
- 淨水設施生態池2處
- 合作自然農場5處

## 社區防災

- 校園/社區聯合防災
- 災害口述歷史調查
- 聯合防災演練1次
- 手作社區生活防災地圖2處

## 空氣汙染防制

- 研發PM2.5微型監測器目前於六縣市佈點共218處
- 推廣環保寺廟34間
- 辦理60場宣導活動
- 培訓86位社區志工
- 製作1部空污防制偶動畫宣導片、1部在地議題觀察記錄片

生態環境問題診斷

高齡化人口照顧

青年留/返鄉的思考

偏鄉兒童教育系統

地方的光榮感

中興新村的活化

## 青年留鄉

- 16個青創團隊
- 陪伴3位青年任職地區NGO組織理事長
- 陪伴1位十大傑出青年

## 小學實驗教育

- 5所國小課程合作食農教育、親子共學、防災等主題
- 辦理偏鄉社區型夜間課輔1處
- 舉辦2城鎮共5屆埔里生態城鎮園遊會

## 生態見學

- 與5個社區合作深度小旅行
- 3條部落蝶道調查
- 3處生態手作步道
- 研發農田微型氣候監測器目前裝置6處

## 長期照護

- 合作醫療醫院2家、長照機構4家、非營利組織5家
- 協力7社區申辦長照巷弄站
- 推動1家長照社會企業、推動1條長照體驗遊程

## 埔里生活生態博物館網絡

- 組成4組行動社群
- 埔里資源調查60節點
- 愛蘭台地已收集18個在地故事
- 4場在地畫家社群寫生活動
- 文史資料庫完成1230筆檔案

通盤性思考人口流向鄉村的生活\生計ecosystem

回首過去，雖然不是那麼經濟面

但暨大的存在，卻為地方提供若干作用：

- 1、當地方治理局勢不佳的時候，為地方社群提供一個對話\可能行動的出口。
- 2、當地方有知識或專業人力需求之時，暨大提供一個協力的機會。
- 3、捲動在地青年與跨世代社群個別、彼此間的對話。
- 4、提供青年返鄉、社群推展公共事務創新的協力能量。
- 5、透過價值引領、社群對話、行動試驗方式，為地方注入新的改變之可能性。

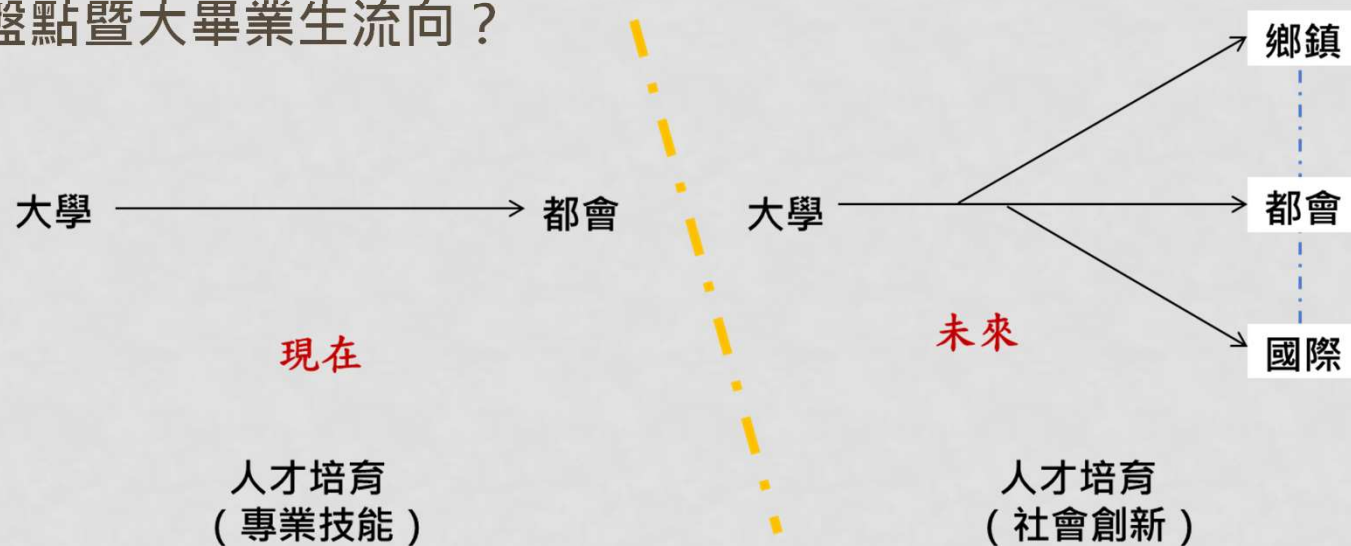
面對臺灣城鄉差距的持續擴大，身為南投縣唯一的  
國立大學，它可做啥？



 國立暨南國際大學  
National Chi Nan University

## 展望臺灣地方創生元年，暨大還可做些什麼？

- 對南投整體區域人口發展趨勢、地方問題、各級產業特性等作更系統性的資料建構。
- 擴大鏈結地方政府、企業、非營利組織、社區，以及其他大學系統。
- 盤點暨大畢業生流向？



**1、重新審視既  
有的學科能量  
與地方發展兩  
者間的Match  
or Gap ?**

**2、如何透過大  
學的平台，為  
地方創生建構  
支持性的  
Ecosystem !**



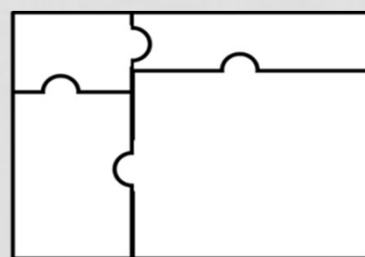
地方創生：大學的主體性



校內不同在地實踐計畫的整合。



升等  
(重研究)



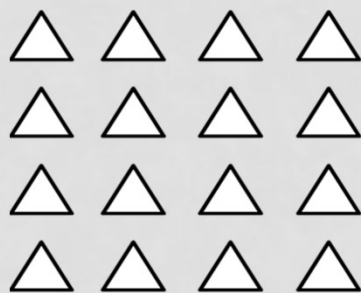
升等  
(多元貢獻)

學術研究、產學合作、  
教學創新等升等機制  
分流

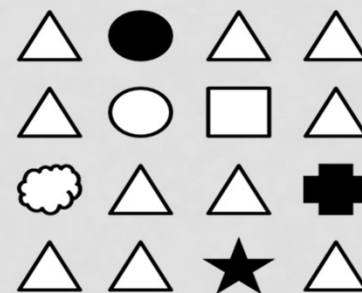


讓博士後研究人員、  
專案教師有未來性！

# 地方創生：大學的主體性

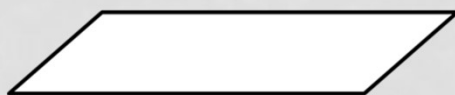


學生  
(同質分工)

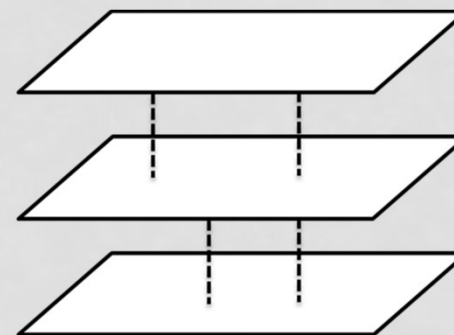


學生  
(異質合作)

提供多元且彈性的學習管道\路徑，建構不同身份\世代別共學機制，例如：**推廣教育、學位學制時間的彈性、鄉村發展學分學程、跨界地域活化學分學程等。**



知識  
(教室)



跨領域知識  
(跨時間、跨地域、跨階層)

**鏈結在地實踐計畫(場域)、R. School，建構全境跨界知識的學習機制。**



一樣的鄉村，  
不同的風景！

簡報結束，敬請指教！

